

# ☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成31年4月1日 VOL. 97

## 第39回 在宅医療部会「救急車を呼ぶということは？」

平成31年3月25日（月）志太医師会館講堂を会場に、在宅医療サポートセンター主催（センター長：杉浦正司氏）の在宅医療部会（研修会）を開催しました。



一般社団法人志太医師会錦野光浩会長より「在宅看取り」をこの地域で叶えるため「平穏死を考えるつどい」を開催して市民の皆さんと意見交換したところ、「救急車を呼んで良いのか」「呼ぶと平穏死できないのか」という疑問の声を聞いた。答えがでるものではないかもしれないが、救急隊や救命救急センターの意見を聞き、ともに考えていきたいと開会の挨拶がありました。

### 在宅医の立場から

三輪医院・老人保健施設ユニケア岡部施設長：杉浦正司 氏



年間約2000件超の往診や訪問診療の経験から、在宅死で比較的平穏な最期を迎えた事例や救急車を呼んだ場合の状況などを紹介し、「病院救急医」と「かかりつけ医」の違いについて整理し、最後に「人生会議」をしましょうとまとめました。



研修会には、医師・看護師・理学療法士などの医療職、ケアマネ・介護施設職員、医療ソーシャルワーカーなどに加え、「認知症の人と家族の会」などの市民を含めた約160人が参集し、関心の高さが伺えました。誰もが「平穏な最期」を望んでいるが、そのためには、事前の準備や心構え・覚悟が必要だということを確認しました。

最後に、サポートセンター杉浦センター長より「具体の行動を考えることができるまでには、まだまだ研修会を重ねることが必要だし研修だけでは答えが見つからないかもしれないが、在宅医療サポートセンターでは「平穏死」を継続課題として引き続き取り組んでいきます。」とまとめがありました。

### 救急隊の立場から

志太消防本部 救急救命士・消防司令 岡崎 達也 氏



救急業務は消防法で「搬送＋応急手当」と定められており、救急隊は要請を受けて心肺停止を確認すれば心臓マッサージと人工呼吸は必ず行なうと使命を説明し、介護施設等には「患者情報の提供や、救急入院時の方針を予めまとめておいて欲しい」と依頼しました。

### 救命救急医の立場から

藤枝市立総合病院副院長 救命救急センター所長 三木 靖雄 氏



高齢化に伴い救急外来を受診する患者も高齢化しており、一命は取り留めても核家族化による老々介護や一人暮らし、8050問題など、医療だけでは救えない現状を紹介しました。高齢者は長期入院により多くの合併症を生み出すので、短期で元の生活に戻すことの重要性も説明しました。